

平成28年度 学校評価実施報告書

1 1回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善 ・主体性の育成 ・言語活動の質的向上 ・活用能力の向上 ●家庭学習の習慣化 ・15分×学年家庭学習習慣の定着 ・ノート指導の充実、ノート検定 ●読書の習慣化 ・100冊読書の定着 ・朝読書の定着 ・読み聞かせの実施 ・国語科における並行読書 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で言語活動を工夫した授業 授業チェックシートを活用した授業づくり 各種調査の分析、取組等の検証 課題に応じた個別学習や土曜学習 ・ジョイントプログラム等の結果考察 <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり話を聞いたり相手を意識して進んで発表したりしている。 ・授業はめあてとまとめが明確で分かりやすい。 <ul style="list-style-type: none"> ・15分×学年家庭学習している。 ・ノートをていねいに書いている。(児童) ・家庭での学習環境を整えている。(保護者) <ul style="list-style-type: none"> ・学校でも家でも進んで本を読んでいる。(児童) ・家庭では読み聞かせや本によくふれあわせている。(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んでできている児童は83.8%。 ・授業が分かりやすい児童は94.1% ・全国学力・学習状況調査(6年)の総合(国・算)結果での正答率は78.3% ・「15分×学年家庭学習している児童は98.6%。 ・分かりやすく書いている児童は80.5%。 ・「学習環境を整えている」は84.6%。 ・「できている」の児童は81% ・家庭では39.7%で実現度は3.4でニーズ度は27.1(保護者) ・「学校生活が楽しい」児童は93.2% ・「友達となかよく」は97.1%ができる。 ・「児童のきまりの遵守は97.5%、時間遵守は88.4%、挨拶は95.3%、掃除は93% ・きまり遵守の保護者は72.8%、時間遵守(保護者)は77.4%、あいさつは83.7% ・「役に立っている」児童は89%、「ありがとうやほめてもらっている」は91.9% ・ほめている保護者は81.3%。 ・「できている」児童は約96.1% ・「守らせている」保護者は81.9% ・「安全について」できている児童は80.9%、行事については79.7% ・「できている」保護者は60.8%
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ●自他を大切にする態度の育成 ・人権感覚の向上 ・自己有用感の向上 ●「公共の精神」に基づく態度の育成 ・規範意識の徹底 ●協働活動を通じた自己有用感・主体性・豊かな心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活が楽しい。 ・学校の友達となかよくできている。 ・学校のきまりと時間の厳守 ・学校のきまり・予定や時間を守つていい、進んで挨拶をしている。掃除の時間いっぽい責任を持ってきれいにしている。 ・「ピア・サポート活動の充実 ・保護者や大人によるほめ言葉 ・ぶりかえりの場の設定 ・え合い高め合ぐ集団づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が楽しい」児童は93.2% ・「友達となかよく」は97.1%ができる。 ・「児童のきまりの遵守は97.5%、時間遵守は88.4%、挨拶は95.3%、掃除は93% ・きまり遵守の保護者は72.8%、時間遵守(保護者)は77.4%、あいさつは83.7% ・「役に立っている」児童は89%、「ありがとうやほめてもらっている」は91.9% ・ほめている保護者は81.3%。 ・「できている」児童は約96.1% ・「守らせている」保護者は81.9% ・「安全について」できている児童は80.9%、行事については79.7% ・「できている」保護者は60.8%
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的生活習慣の確立 ●命を守る態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズム表」の意識的活用による生活リズムの定着 ・「いきいき週間」の取組 ・命を守る教育の取組 ・遊びや運動・体験活動を通した心と身体の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはん等の生活がいつも進んでできている。(児童) ・守らせているか。(保護者) ・安全に気をつけた行動や家で安全の話をする。 ・地域行事等への積極参加 ・地域行事やPTA行事への声かけ(保護者)
独自の項目	<ul style="list-style-type: none"> ●アントレプレナーシップ教育の推進 ●小中一貫教育の推進 ●情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいタウン」の実施 ・「3Cプロジェクト」の推進 ・協働活動を通じた自己有用感・主体性の向上のための取組 ・取組後ふりかえり ・家庭での手伝い(児童) ・「取組後感想アンケート ・表現活動の充実 ・挨拶や掃除の充実・徹底 ・家庭学習の定着・学習準備 ・積極的なホームページの更新 ・学校によりの内容(「学校教育方針」「小中一貫教育」)の充実 ・情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家での手伝い」は児童79.4% ・「文字を分かりやすく書く」児童は80.5%、「誰でも進んで挨拶できる」は95.3%、「学習準備」は88.8%の児童ができている。 ・取組がよく分かる保護者は90.6% ・9/21現在で13300件アクセス(昨年度は年間21453件アクセス)



自己評価	
評価日	平成28年9月21日
評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)
・「進んでできている児童は83.8%。 ・授業が分かりやすい児童は94.1% ・全国学力・学習状況調査(6年)の総合(国・算)結果での正答率は78.3%	分析を踏まえた改善策
・「15分×学年家庭学習している児童は98.6%。 ・分かりやすく書いている児童は80.5%。 ・「学習環境を整えている」は84.6%。	・授業振り返シートを活用し、「つづけたい力」や「ねらい」を意識した授業づくりを行い、自己評価を通して常に授業改善を行う。 ・「授業チェックシート」の評価項目内の既に高い数値が出てる項目を外す。現在の実態に即した評価項目へと改訂する。
・「できている」の児童は81% ・家庭では39.7%で実現度は3.4でニーズ度は27.1(保護者)	・授業でのてを提示し、めあての解決に向けた言語活動を意図的に取り入れる。また、学習を通しての学びをまとめ、児童自身も1時間での学びを繰り返されるようにする。 ・家庭学習の内容や分量、出し方などを校内および九条中ブロック内でも検討する。また、家庭への理解推進や学習支援を行う。 ・図書を中心とした子どもの読書意欲への向上と活用能力の向上を図る。
・「学校生活が楽しい」児童は93.2% ・「友達となかよく」は97.1%ができる。	・「いつでも」「どこでも」「誰にでも」をキー ワードに、全ての教職員が規範意識や自律心の育成を目指して徹底的に指導する。 ・「ほめる」ことを意識した指導を行う。どのタイミングで、どのようにほめるのかを考える。 ・子どもたちに活動の場や機会を意図的に設け、努力やがんばりを認めることをより行動等を価値づけすると共にメタ認知を図る。
・「児童のきまりの遵守は97.5%、時間遵守は88.4%、挨拶は95.3%、掃除は93% ・きまり遵守の保護者は72.8%、時間遵守(保護者)は77.4%、あいさつは83.7%	・「いつでも」「どこでも」「誰にでも」をキー ワードに、全ての教職員が規範意識や自律心の育成を目指して徹底的に指導する。 ・「ほめる」ことを意識した指導を行う。どのタイミングで、どのようにほめるのかを考える。 ・子どもたちに活動の場や機会を意図的に設け、努力やがんばりを認めることをより行動等を価値づけすると共にメタ認知を図る。
・「役に立っている」児童は89%、「ありがとうやほめてもらっている」は91.9% ・ほめている保護者は81.3%。	・上記2点について、家庭・地域ともに考えれる機会を持つ。特に、学級懇親会では、保護者にも行動目標を持ってもらい、その様子を定期的に見取るようにする。教職員についても同様に定期的に振り返りの機会を持つようにする。
・「できている」児童は約96.1% ・「守らせている」保護者は81.9%	・「翠藻・早起き・朝ごはん」についてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。 ・「翠藻・早起き・朝ごはん」についてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。
・「安全について」できている児童は80.9%、行事については79.7% ・「できている」保護者は60.8%	・翠藻・早起き・朝ごはんについてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。 ・翠藻・早起き・朝ごはんについてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。
・「家での手伝い」は児童79.4%	・「翠藻・早起き・朝ごはん」についてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。
・「文字を分かりやすく書く」児童は80.5%、「誰でも進んで挨拶できる」は95.3%、「学習準備」は88.8%の児童ができている。	・翠藻・早起き・朝ごはんについてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。
・取組がよく分かる保護者は90.6% ・9/21現在で13300件アクセス(昨年度は年間21453件アクセス)	・翠藻・早起き・朝ごはんについてはかなり意識的で、しかし、基本的な生活習慣の確立をめざして、児童の意識的行動を確立する。

学校名(京都市立九条弘道小学校)

学校関係者評価	
評価日	平成28年9月27日
評価者 (いざれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・文字を丁寧に書く力、ノートを自分でまとめる力は大切にしてほしい。「ノート検定」のねらいや成果が分からず、子どもがかかる立場の者の連携、共通理解を図り、規範意識の向上と共に学力の向上を図る。	・学校と学校運営協議会各委員会、放課後まちび教室や学童クラブ、そして保護者など、子どもがかかる立場の者の連携、共通理解を図り、規範意識の向上と共に学力の向上を図る。
・「学校運営協議会で、学校教育目標の具現化に向けて、朝読書の充実度を年々低め、課題になっていたが、あまり改善が見られない。読書するこのよさを皆がとらえると共に、読書の時間確保を図ることが大切である。	・学校運営協議会で、学校教育目標の具現化に向けて、朝読書の充実度を年々低め、課題になっていたが、あまり改善が見られない。読書するこのよさを皆がとらえると共に、読書の時間確保を図ることが大切である。
・学校運営協議会で、学校評議員による意見を聞く会に参加するメンバーは、日頃から子どもたちとかわる機会が多く、学校の取組や今の子どもたちの姿を知る声を中心とするようにし、各自治会長やPTA本部より参加を募るようになる。	・学校運営協議会で、学校評議員による意見を聞く会に参加するメンバーは、日頃から子どもたちとかわる機会が多く、学校の取組や今の子どもたちの姿を知る声を中心とするようにし、各自治会長やPTA本部より参加を募るようになる。
・地域の運動活動にもっと参加してほしい。そのためには内容を工夫する必要がある。また、また参加したことがない子どもをどう引き込んでいくかが大切である。昨日のティヤギャンブランは全校の4分の1の子どもが参加していた。	・地域の運動活動にもっと参加してほしい。そのためには内容を工夫する必要がある。また、また参加したことがない子どもをどう引き込んでいくかが大切である。昨日のティヤギャンブランは全校の4分の1の子どもが参加していた。
・大人も積極的に子どもとかわり、顔を覚えてもらい、さらに顔で会話を進めている。子どもたちの発表の場や各種行事に、学校運営協議会の委員に限らず、より多くの子どもが参加できるようにする。	・大人も積極的に子どもとかわり、顔を覚えてもらい、さらに顔で会話を進めている。子どもたちの発表の場や各種行事に、学校運営協議会の委員に限らず、より多くの子どもが参加できるようにする。
・「子どもを語る会」に参加するようになると、子どもたちがどんどん機会が多く、学校運営協議会や各自治会長、PTA本部より参加を要請するようになる。	・「子どもを語る会」に参加するようになると、子どもたちがどんどん機会が多く、学校運営協議会や各自治会長、PTA本部より参加を要請するようになる。
・「子どもが語る会」は、学校、家庭、地域が意見を交換できる場として行っているので、今後も学校、家庭、地域が共に、防犯教育や安全教育を進めていく。	・「子どもが語る会」は、学校、家庭、地域が意見を交換できる場として行っているので、今後も学校、家庭、地域が共に、防犯教育や安全教育を進めていく。
・子どもは忙しい中、めりはりをつけて生活している。テレビ等も含めて、その他の様子を定期的に見取るようになる。	・子どもは忙しい中、めりはりをつけて生活している。テレビ等も含めて、その他の様子を定期的に見取るようになる。
・休日の地域行事や学校行事だけでなく、南区内外や全市の行事が多く、子どもたちも参加が難しい部分もある。	・休日の地域行事や学校行事だけでなく、南区内外や全市の行事が多く、子どもたちも参加が難しい部分もある。
・「子どものがんばりをしっかりと見取り、具体的にほめていく。	・「子どものがんばりをしっかりと見取り、具体的にほめていく。
・「子どもが語る会」は、学校、家庭、地域が意見を交換できる場として行っているので、今後も学校、家庭、地域が共に、防犯教育や安全教育を進めていく。	・「子どもが語る会」は、学校、家庭、地域が意見を交換できる場として行っているので、今後も学校、家庭、地域が共に、防犯教育や安全教育を進めていく。
・緊急災害時における避難所設営体験を今月初めで実施する。今後、行政、学校、学校運営協議会や各委員会で内容や実施方法等を検討していく。	・緊急災害時における避難所設営体験を今月初めで実施する。今後、行政、学校、学校運営協議会や各委員会で内容や実施方法等を検討していく。
・子ども自身にどのようにして意識づけるのかが大切。	・子ども自身にどのようにして意識づけるのかが大切。
・小中連携、小小連携の取組について子どもに対して事後アンケートを実施し、その結果等を学校運営協議会内で公表したり、保護者へも発信することで、開心や理解等を促進させる。	・小中連携、小小連携の取組について子どもに対して事後アンケートを実施し、その結果等を学校運営協議会内で公表したり、保護者へも発信することで、開心や理解等を促進させる。
・学校評議会アンケートの質問項目を九条中ブロック3校で統一するなど、9年間で子どもを育む体制が一層進んでいる。	・学校評議会アンケートの質問項目を九条中ブロック3校で統一するなど、9年間で子どもを育む体制が一層進んでいる。
・ホームページや学校などがあるが、さらなる充実を目指す。	・ホームページや学校などがあるが、さらなる充実を目指す。
・「あれあいタウン」を含む総合的な学習の時間や生活科の学習でつづけたい力を明確にし、子どもたちをよりよく育んでいくために、「キャリア教育」でつづけたい力を意識した指導を行う。	・「あれあいタウン」を含む総合的な学習の時間や生活科の学習でつづけたい力を明確にし、子どもたちをよりよく育んでいくために、「キャリア教育」でつづけたい力(九条中ブロック版)を意識した指導を行う。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・主体性の育成 ・言語活動の質的向上 ・活用能力の向上 ●家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・書く力の育成 ・九条学習プラン ・九条生活プラン ●読書の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・15分×学年の家庭学習習慣の定着 ・ノート指導の充実・ノート検定 ・ノート検定(発展編)合格者の意識したノート指導と子どもの意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で言語活動を工夫した授業 ・授業チェックシートを活用した授業づくり ・チェック項目の再検討および修正 ・各種調査の分析、取組等の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり話を聞いたり相手を意識して進んで発表したりしている。(授業はあてとまとめが明確で分かりやすい)。 ・ジョイントプログラム等の結果考察
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ●自他を大切にする態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚の向上 ・自己有用感の向上 ●「公共の精神」に基づく態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の徹底 ●協働活動を通じた自己有用感・主体性・豊かな心の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ビア・サポート活動の充実 ・保護者や大人によるほめ言葉 ・意図的なふりかえりの場の設定と工夫 ・支え合い・めめ合う集団づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の人権学習「なかよしの日」の充実 ・人権月間の取組、保護者啓発会の充実 ・「なかよしの日」の学習の感想等の発信 ・一人ひとりを大切にした学級経営 ・学校のきまりと時間の管理 ・挨拶や当番活動の充実と徹底 ・生活フランの共通理解と実施 ・キッズボランティアの取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活が楽しい。 ・学校の友達となかよくできている。
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的生活習慣の確立 ●命を守る態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る教育の取組 ・遊びや運動・体験活動を通した心と身体の育成 ・安全指導、教職員の危機管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズム表」の意識的活用による生活リズムの定着 ・「いきいき週間」の取組 ・家庭との連携と子どもへの働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはん等の生活がいいも進んでできている。(児童) ・生活習慣を整えているか。(保護者)
独自の項目	<ul style="list-style-type: none"> ●アントレプレナーシップ教育の推進 ●小中一貫教育の推進 ●情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいタウン」の実施 ・「3Cプロジェクト」の推進 ・協働活動を通じた自己有用感・主体性の向上のための取組 ・ねらいを明確にした保幼小中連携・小連携・小中一貫教育の取組推進 ・事後アンケートの実施と発信 ・「九条中プロダクティア教育」の充実 ・積極的なホームページの更新 ・学校だよりの内容(「学校教育方針」「小中一貫教育」等)の充実 ・情報発信の内容・方法等の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後のふりかえり ・家庭での手伝い(児童) ・取組後感想アンケート ・表現活動の充実 ・挨拶や掃除の充実・徹底 ・家庭学習の定着・学習準備 ・学校の取組がおたよりやHP等でよく分かる。(保護者) ・学校ホームページへのアクセス数

自己評価	
評価日	平成29年2月28日
評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)
・進んでできている児童は82.6%・授業が分かりやすい児童は91.5%・6年ジョイントプログラムの総合(4教科)平均正答率は88.3%	・国語科を中心に「表現力」の育成を図り、身につけた力をあらわす教育活動の中で活用することを重視した。これにより日々の実践の中に生きる研究を進めることができ、子どもたちの表現力を高めることができた。 ・言語活動を工夫した授業、ねらいとついた力を確実にした授業づくりを意識づける「授業振り返りシート」(教員用)による授業改善が成果として挙げられる。 ・「ノート検定」、「パワーアップスタディ」などの取組が定着し、子どもの学びに向かう基礎力の向上につながっている。
・「15分×学年以上家庭学習している児童は82.3%、分かりやすく書いている児童は84.6%・「学習環境を整えている」は85.2%	・小中一貫教育の重点課題として挙げている「家庭学習の定着」に向けての具体的な取組や枠組み等を考る。家庭学習の目標を学校・家庭・子どもが共有できようにして、それそれが連携しながら取り組む。 ・対話的な学びを意識した授業づくりをすると共に、多様な対話のあり方を考え実践する。 ・教科横断的で深い学びのある授業や事を考え、意図的に年間に配置する。 ・単元や時間を見通した指針計画を作成する。また学校教育目標を軸として横断的な学びの機会を意図的に設定する。
・「できている」の児童は68.8%・家庭では27.8%で、実現度は3.3%、ニーズ度は28.2%(保護者)	
・「学校生活が楽しい」児童は91.9%・「友達となかよく」は91.2%ができる	・「学校生活が楽しい」「友達となかよく」の数値は高い。しかし、否定的な数値が19%と微増していることを受け止め、今後も児童たちを見取っていく必要がある。 ・規範意識の徹底により、きまりや時間を守ることができている。一方で、相手や周囲が変わると、きまりやルーチンを十分に守り切れないなど、規範意識が子ども自身のものとして定着していない部分もある。 ・ピアサポート教育の充実により、異学年間のかかわりが増え、相手意識を持った行動やよりよい姿を見せる場面が増えた。
・「児童に立っている」児童は80.4%、「ありがとうや褒めてもらっている」は90.5%・ほめている保護者は77.4%	
・「できている」児童は88%・「整えている」保護者は80.5%	・前期のアンケート結果で課題として見えた「生活習慣」に関わる項目での実現度が高まっている。毎月の「いきいき週間」を中心とした、学校や家庭で子どもたちにかかわってきたことが成果として表れた。 ・「いきいき週間」では、全ての家庭と連絡を取りながら取組を進めたことで、保護者の意識が向上した。
・安全について「できている」児童は73.4%、行事については78.8%・「できている」保護者は48.4%	
・「家の手伝い」は児童74.7%	・学校と家庭の連携や広報により、学校の取組や家庭の役割に対する理解が高まっており、「実現度」の向上にもつながった。 ・「ピアサポート」や「ふれあいタウン」の取組でまとめてしきりにいたった成果で自己用感や達成感が向上した。 ・「九条学習プラン」「九条生活プラン」を小中3校で実施し、大人も子どもも学びに向かう姿勢や基礎基本の大切さを常時意識することができた。 ・ホームページやメールの積極活用により学校の取組を広く広報することができた。
・「文字を分かりやすく書く」児童は84.6%、「誰にでも進んで挨拶できる」は87.7%、「学習準備」は90.4%の児童がでできている。	・学校行事や委員会活動、児童会活動で学校でも児童の主体性を育む活動や探究的な学びの機会を創出する。 ・自己用感の向上をめざし「ピアサポート」や「キッズボランティア」の取組、「ふれあいタウン」、そして保幼小中連携での活動を継続・深化させていく。 ・小中一貫教育では、「学びの活用と深さ」「主体性の育成に重点を置くこと」「探究的な学び」を生み出す授業や取組や評議の運営を進め、「キャラクターフォーマンス」を組み込んだ総合的な学習の時間の単元構想・年間計画を作成し、実践する。
・取組がよく分かる保護者は91.7%・2/28現在で23866件アクセス(昨年度は年間21453件アクセス)	

学校名(京都市立九条弘道小学校)		学校関係者評価
評価日	平成29年3月7日	
評価者 (いざれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策	
<p>・子どもたちは何事にも眞面目に取り組んでいる。話しかけや聞き方など、行事等を仲間に協力して行う姿がすばらしい。</p> <p>・今のお子様の家庭での状況を考へると、家庭で読書の時間を持つことは難しいものかもしれない。学校で読書の時間を確保しているのであれば、「本は好きか」と聞くことも必要かもしれない。</p> <p>・後期では、子ども自身が自ら考えたり判断したりしながら行動することが求められるような場面や学習がたくさんあつたため、子どもたちは学習に難しさを感じたと思われる。実際にそこまでの落ち込みは見られない。</p> <p>・前期と比較して、全体的な数値の落ち込みは見られるが、随分と高い数値であったのは、子ども自身が自らを厳しく評価することができるようになったからとも考えられる。</p> <p>・以前は課題に見られた子どもたちの不適切な言葉づかいや行動が減った。また、あいさつがよくなつた。</p> <p>・地域行事にたくさんのお子様や教員が参加し、学校、子どもとの地域の距離が非常に近くなつた。</p> <p>・他の家庭の子どもたちも共に育もうと考える保護者が増えてきた。</p> <p>・「自分の生命は自分で守る子」をめざし、安全委員会の取組等を進めてきたが、新たに取り組んだ「避難所体験学習」では、学校、地域、区役所、消防署、警察署の連携を図り、有事に備え、組織的に動くことを知ることができた。</p> <p>・「いきいき週間」は、全ての子にはできないが、保護者も児童も生活習慣を意識する大きなきっかけになっている。</p> <p>・子ども同士が学年間、異学年間共に優しくかかわることができている。</p> <p>・地域との距離が近くなり、登下校時に子どもからあいさつが聞こえた。</p> <p>・学校の取組や児童の様子が積極的に発信されているのでよいと思う。ただし、お便りやHP等をほとんど見ていない人もいるようなので発信方法にさらなる工夫も必要である。</p> <p>・「ふれあいタウン」では、趣向を凝らした多様な発表があつてよかった。地域とのつながりを大切にした取組もあるのがよいと思。</p>	<p>・発表する力は定着してきたが、内容を継続するような対話はまだではない。今後は相手の話をどのように聞くかを意識し、聞く力の向上を図る。</p> <p>・地域行事の中にも子どもたちが活躍できる場面を設定していく。</p> <p>・学校生活の中でも親しむ機会は引き継ぎ持つようにする。また、家庭でも本にふれる時間を生み出すための努力目標を設定いたぐなど、具体的な方策を考え実践する。</p> <p>・各取組が子どもに返っているのか、都度検証しながら、改善を図るという意識を持つと共にそのための場を設定する。</p> <p>・今取り組んでいることをより多くの子どもや保護者に届けるために、内容を検討していく必要がある。そのためにも、子どもや保護者の実情を把握し、思いや考え方を受け止めながら取組を進める。</p> <p>・「学習プラットフォーム」を学校で指導するだけでなく、家庭・地域にも浸透させ、子どもたちが身につけるべき事柄を同じ姿勢で教えていくようにする。</p> <p>・懇談会や学校運営協議会、PTA会等に、できる限り多くの方に参加いただけるようこれまで以上に呼びかけていくと共に内容や運営方法等を工夫・改善する。</p> <p>・「いきいき週間」は継続し、「健健だより」等で健康教育への理解推進を図る。また、メール配信を活用した保護者への呼びかけも検討する。</p> <p>・避難所体験学習を3か年計画で実施する。(知る一考る一行動する)また、子どもや保護者の防災に対する意識を高め、地域の防災訓練に参加するようがす。</p> <p>・HPや学校だけでなく学校や各学年の取組だけでなく、小中連携の様子についても発信はされているが、より広く発信するため、校内外の掲示板を活用しての情報発信も行う。</p> <p>・学校だけでなく学校運営協議会を客観的に評価し、改善していくための評価の仕組みを検討する。地域の役員も固定化していくので、新たな人の加入による活性化を図る。</p> <p>・学校・家庭・地域・子どもの連携がうまく図れており、伝統となっている行事もある。これらは工夫・改善しながら継続していく。</p>	